これが繰込み改善？
人権侵害では…

八月三日から繰込みを改善すると十一項目の通知があった。その中に新聞・雑誌の坑内への持ち込み禁止がある。

休憩時間に読む個人の趣味まで取りあげる権利が会社にあるのか。持ち込まれた新聞・雑誌を散らすのが原因だとするなら、それは個人のモラルの問題であり、モラル向上のための啓蒙にもっと努力すべきではないのか。

会社は、掲示で啓蒙しているというかもしれないが、坑内に散らすのは新聞・雑誌だけではない。ミカン類からジュース缶、弁当の食べかすまであり、持ち込み禁止という安易な方法をとるなら、弁当の持ち込みまで禁止しなければならなくなるだろう。

休憩時間をどうやって過ごせというのか。個人の楽しみを奪うのがなんで改善か。人権の侵害だ。

職場の声は3分会職場新聞「やま」6号から

坑内で新聞や週刊誌を人車から投げ捨てるのをたまに見かける。会社はこれを理由に保安面や見た目が悪いということで、週刊誌や新聞の持ち込みを禁止している。

一部の人のモラルの悪さが、入坑者全員に迷惑をかけ、会社に締めつけの口実を与えているのだと思う。坑内でのせめてもの楽しみをなくさないためにも、お互いが他人に迷惑をかけないよう、マナーの向上に努力しよう。

（A・E）

労働者は囚人ではない

三川鉱では、「繰込み改善」の名目で、いろいろと規制を強めてきている。

みんなが嫌々やっている指差呼唱にはじまって、今度は繰込みの札上げから、騒音でよく聞こえないのに返事までせよといっているが、それなら繰込みをする係員はマイクが必要ではないか。

入坑前の繰込場では、最後の一服も楽しむ人が多いのにこれも禁止し、お互いの会話さえするなとはひど過ぎる。

昼休みといっても何の楽しみもない坑内で、新聞や雑誌さえ見るなとは何事だ。

炭鉱労働者は囚人ではないぞ。

人車の中から、ミカンの皮や紙屑などを捨てるなどは、保安上からも衛生上もよくない。これはモラルの問題で、会社の指導が不足しているためだ。

会社は、首切り賃下げで合理化を押しつけ、今度は規則（繰込み改善は規則ではない）、決まりで労働者を締めあげ、ますます暗い職場にするつもりか。

裁判闘争の意義を
果した役割りは大きい

三池CO裁判弁護団　小島　肇

仲間に支えられたCO闘争

今回の和解は、大災害以来二十四年、裁判提訴以来十四年の長い苦しいたたかいのうえで勝ちとったものです。裁判は、すでに時効問題が大きく立ちはだかっているのを承知で、あえて提訴に踏み切ったものでした。

この裁判の責任論の面では、炭じん爆発の全貌を完全な形で立証したとは言えないにしても、原告側がほぼ有利な形ですすめてきたのではないかと思います。会社は、それを前提にしつつも、時効問題では会社が断然有利だと考えていたようです。

しかし会社は、判決をもらって、たとえ会社の責任が認められても、時効が認められる結果、会社がほとんど賠償金を払わないですむ道を選ぶことができませんでした。和解に終始消極的であった会社ではあっても、判決という形で会社の責任が明解に断罪されることを何よりも恐れ、たとえ実質的に法的責任を認めたと受けとられようと、和解の道を選んだのです。

原告団総会で（7月12日）

かちとった成果

和解成立にあたって会社は、あくまで法的責任を認めたものでないと言っています。しかし法的責任がないと考えるものが、CO協定を存続させながら、総額二十数億円もの賠償金を払うことは、社会常識上ありえないのではないでしょうか。

このように三井鉱山に実質的な法的責任を認めさせたという点では、大きな成果をかちとったと言えるのではないでしょうか。この点は、今回の和解が金額面で極めて不満を残す解決となった結果、忘れがちですが、きちんと見ておく必要があると思います。

次に、会社に大災害の原告ら被害者に十分な賠償をさせる点では、大きな不満を残すことになりました。CO協定の存続をかちとったとはいえ、和解金額を何とかもっと上積みできなかったものか。この思いは、原告団はもちろん、自主交渉にあたった組合執行部、弁護団の誰もがいだいている気持だと思います。

和解金について

和解金額が、このような低額となったのは、いくつもの原因があります。最後まで克服しえたといえない時効問題。長期裁判の中での原告の老齢化と裁判を支えた三池労組の組合員の減少。しかも予想外の石炭切り捨てを急激にすすめた第八次石炭政策の進行。その中でマスコミも石炭産業の終焉を告げるキャンペーンをはる最悪の状況下での和解交渉。この状況は、私たち当事者だけでなく、裁判所にも世論にも影響を与えたのではないかと思います。少ないとはいえ、この和解金が多くの原告に少しでも役立つことを願うばかりです。

評価について

最後に私は、私たちのたたかいを、今回の和解内容だけで評価すべきでないことを強調しておきたいと思います。三池のCO闘争と裁判闘争があったからこそ、労災諸法が改正され、また石炭資本と炭労との弔慰金協定が大幅に改善され、その成果がその後の多くの労災被害者に大きく役立ち、さまざまな権利闘争を前進させたことを忘れてはならないと思います。

そうした面からも、全国の仲間から支えられながらたたかったCO闘争と裁判闘争の意義をとらえてみる必要があるのではないでしょうか。

いえ、この和解金が多くの原告に少しでも役立つことを願うばかりです。

三池港務所
合理化を強行
たたかいは今から

三池港務所では、「企業の生き残り策」だとする緊急対策が強行されることになった。

七月二十八日からの中央交渉とそれに先立つ山元交渉で、会社は「基本的には受け入れられない」として三池労組の要求を拒否した。

一方、社員組合は若干の手直しと補強、その他で了解して妥結。会社はこれをテコに実施に踏みきった。

会社が全面的な合理化を構えてくるとき、小手先だけの、話し合いの労使協調路線による交渉では何ら解決できず、実質的な人員整理すらも阻止できないことがはっきりした。

港務所に働く労働者の声は、合理化の中身を知れば知るほど不安と不満がいっぱい――というのが現実であり、今後職場ではさまざまな矛盾が出てくるのは避けられない。

三池労組は、このたたかいの中で港務所でははじめての四日間の座り込みや決起集会をおこない、港務所の組合員をはじめ三池労組全体と主婦会、さらに各政党や民主団体の支援と激励をうけ、また陣中見舞等をうけるなどの広がりを見せ、直轄、下請けを含む多くの港務所労働者の共感を得ることができた。

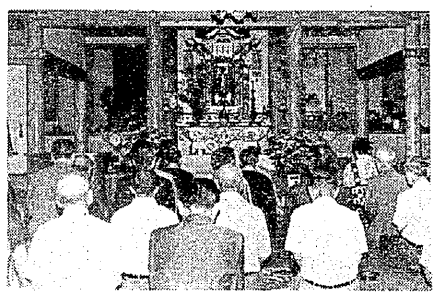
交渉が決裂し、港務所分会では三十一日に抗議の二十四時間ストライキに突入しましたが、合理化が具体的にすすんでいく。たたかいは終わったのではなく、むしろこれからだ――と決意している。

（七分会　Y・I）

囚人労働者の法要

大牟田囚人墓地保存会（浦川守代表）は、八月十日午前十時から市内久保田町の運心寺で第十九回目の死没囚人労働者の法要を営みおよそ五十人が参列し、過酷な強制労働の犠牲となった三池炭鉱での囚人労働者をしのびながら、霊をなぐさめました。

死没囚人の数は二千五百人を超えますが、保存会は囚人墓地をはじめ囚人労働者に関する歴史を保存する運動を続けています。



核兵器廃絶のために
長崎「平和式典」で宣言
被爆者、援護法制定を要求

八月九日、長崎市主催の「平和式典」が平和公園平和祈念像前に被爆者や遺族など約二万四千人が参加して開かれました。式典では被爆者、遺族代表が供花、黙とうのあと被爆者代表が被爆者援護法制定と核兵器廃絶を訴え、本島市長が平和宣言を読みあげました。

平和宣言（要旨）

日本のみなさん、世界のみなさん、ナガサキの声を聞いてください。

一個の原子爆弾がさく裂して、その瞬間、長崎は炎うずまく地獄の谷となり、熱線、爆風、悪魔のような放射線は、十数万の人びとを殺し傷つけました。

あの日の惨禍は、今なお生き残った被爆者の心と体をむしばみ続け苦しめています。

しかし、核兵器の開発は、現代科学の粋を集めて何のためらいもなく続けられ、今や全世界の核兵器の威力は、長崎・広島型原爆の百数十万倍にも及んでおり、しかも、核戦略は宇宙空間にまで広がろうとしています。

SDIなどの開発競争は、白雲浮かぶ青空も、緑の大地も、青い海も、今や破壊と殺りくの核戦場となる可能性を持っています。

現在、米ソ両国によるINFを中心とする核兵器削減に関する提案には新たな変化が見られます。年内に首脳会談を開催し核兵器廃絶に向かって、あらゆる努力をはらってください。また、その他の核兵器保有国も核兵器廃絶への道をすみやかに歩んでください。

国連の全加盟国は、来年予定されている第三回軍縮特別総会において、核軍縮についての画期的な決議を採択するよう努力してください。

日本政府にお願いします。まず、国是である非核三原則を守ること。核実験の停止をはじめ世界の核軍縮のために積極的に働くこと。世界の被爆者のための国際医療センターを設置すること。一日も早く国家補償の精神にもとづく被爆者援護対策を確立すること。子どもたちの平和教育を徹底すること――などです。

平和は武装して守るものではなく、世界の人びとが手をつないで作りあげるものです。平和こそ、人類が子孫へ伝え残すべき最高の遺産です。

経済活動が国際的に広がるなかで、今こそ世界の国々は軍縮の努力をはらい「世界は一つ」という理念を確立するときです。

私たち日本人は、世界の飢餓・難民・疾病・失業などをみずからのものとして解決しなければなりません。

ここに原爆で亡くなられた方々の御霊安かれと祈り、遺族の方々と被爆者のみなさんのご健康をお祈りいたします。

原爆のあの悲惨さを決して忘れることなく、核兵器廃絶と世界恒久平和に向かって努力することを宣言します。